

# ともに

## なるほど 特別支援教育 その3



### はじめに

新宿区では、一人ひとりの子どもが豊かに学べる環境を目指して、個に応じたきめ細かな教育を推進しており、区の特別支援教育の理解啓発を目的に「ともに」を発行しています。

「ともに」を通して、子どもの成長への不安が少しでも和らいだり、今後の子どもの成長を支え可能性を伸ばすために、特別支援教育についてともに考えていただくきっかけになれば幸いです。

## あのころをふりかえって (協力:新宿区立学校卒業生・在校生の保護者)

頑固で気難しく協調性がない息子は、アスペルガー\*1の傾向を指摘され、小1から週1で通級(通級指導学校の略、現まなびの教室)に通い始めた。初めは緊張していたものの、息子はすぐに通級が大好きになった。息子の為の授業は、大好きな、手持ちのカードを推理する知育系ゲーム、創作活動や料理もあり、息子には魅力満載!

また、真摯に向き合って下さる先生方を息子は信頼し、丁寧で的確な指導の下、苦手な事にも少しずつ挑戦するようになったり、学年をまたいでの活動で協調性や思いやりの心が生まれたりと、少しずつではあるが着実に成長していった。

こうして大好きな通級を精神的支えとして、息子は中学受験を乗り切った。しかし、高1になっても息子のでこぼした性格は未だに健在である。

例えば中3の冬、息子は遅刻を重ね体調を崩しながらも頑なに徹夜を続けた時期があった。理由を聞けば、中学の合唱祭でクラスの課題曲のデモテープをパソコンで起こしていると言う。「僕にしか出来ないことだから。」と、縁の下の力持ちとして、毎晩一人黙々と作業を重ねていたのだ。そして、中学最後の合唱祭では息子のクラスが見事優勝し、興奮した級友たちは、校庭の集まりの隅にいた息子を胴上げしてくれた。

幼稚園の教室の片隅で、毎日一人ぼっちで迷路を書いていたあの小さくて偏屈な息子は、いつのまにか人とつながる勇気を持ち、人の為に動けるようになっていた。温かい人の輪の真ん中にいる息子を見て、涙がこぼれた。

いまだに問題は多いが、通級で学んだことは確実に息子に根付いていると感じている。「この子は出来ないのではなく、運転の仕方が分からないだけです。だから私達は自分の運転の仕方を教えているのです。」今も胸に響く通級の先生の言葉と共に、残された親子の時間の中で、これからも彼の自立をサポートしていきたい。

\*1 自閉症スペクトラム (ASD) の1つ

息子がディスレクシア(発達性読み書き障害\*2)であるとわかったのは、小学校2年生の頃です。1年生の担任の先生から「問題を飛ばして解いているから、何か目の機能に問題があるのではないか」と言われたのがきっかけでした。最初は「おっちょこちょいな子だから」と考えていたのですが、漢字の習得が遅いこと、書き写すのが苦手なこと、「おちゃ」などの拗音、「きっぷ」などの促音がわからないなど、読み書きで困ることが多くなり、専門的な検査を受けることになりました。ディスレクシアであるという事実を知ったときには、「これから先どのように学んでいけばいいのだろう」と暗い気持ちになりました。しかし、週に1回「まなびの教室」で専門的なトレーニングを受けることで、少しずつできることが増えていきました。眼球を動かす訓練を続けたことで目の動きがよくなり、文字を抽出したり、同じ図を描いたりする練習で読み書きも上達してきました。たくさんは読めませんが本も好きになり、現在では図書委員をしています。文字を書くことが苦手な息子でしたが、先生方のご尽力もあり、本人に合ったツールを見つけることもできました。また、息子がディスレクシアであることを隠すことなく、周囲に話し、助けを求めたことで、同じように悩む人に出会うこともできました。それが息子を理解し、本人が過ごしやすい環境を整えることにつながりました。

今ふりかえると、早めに原因を知り学校に協力を求めたことは、息子の学習と自己肯定感に大きなプラスとなりました。同級生と同じように文字が書けないことで、「僕は勉強ができないんだ」と落ち込んでいた息子が、必要以上に自分を責めたり傷つけたりすることなく、自分自身とうまく向き合えるようになったことは、何よりありがたいことだと感じています。

\*2 学習障害 (LD) の1つ

## 学校の先生たちは子どもたちの困り感を 発見・改善するために知恵を出し合っています



子どもの学習や友達関係などでの困り感を把握し、どんな支援が必要かを検討し、提案していきます。そのあとも、よりよい学校生活の実現に向けて、定期的に支援の成果や改善点などについて話し合いをしていきます。

### 養護教諭

健康診断や保健指導を行うとともに、学校全体の子どもたちの心身の健康状態を把握し、相談のするなどしています。

### まなびの教室の先生

専門の知識をいかして、個別の課題に応じた指導をしたり、担任の先生などに提案したりします。指導の成果を確認していきながら担任の先生たちと次のステップを考えていきます。



### 特別支援教育コーディネーター

支援を必要としている子どもの情報を収集し、校内の先生や外部の専門家の先生などと連携しながら、支援方針を考える準備を整えます。また、子どもの成長や指導の成果などの確認を行います。

### 担任

子ども一人ひとりに目を配り、子どもたちにとってわかりやすい授業になるよう工夫したり、環境を整えたりしています。

\*外部の専門家の先生を交えて話し合いをすることもあります



### 発達障害とは

自閉症スペクトラム (ASD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD) など、脳機能の発達に関係する障害で、家庭環境や親の育て方が原因となるものではありません。障害の種類や程度、年齢や性格などにより個人差があり、個に応じた対応が必要です。

※発達障害はしばしば複数の種類が重なり合って現れます。また、紹介した代表的な3つだけでなく、発達性協調運動障害や高次脳機能障害、チック障害などもあります。

### 学校など日常生活を送る上で見られる様子(例)

**自閉症スペクトラム (ASD)**  
人とコミュニケーションをとるのが苦手、変化に対応できずパニックになる、集団でのルールや動きに合わせにくい、感覚の過敏さ・鈍感さなど

**注意欠陥多動性障害 (ADHD)**  
落ち着きがない、うっかりミスが多い、かっとなりやすい、特定のことに注意を止めておくことが難しく、一つのことに取り組んでもすぐに飽きてしまうなど

**学習障害 (LD)**  
知的発達の遅れや勉強不足が原因ではなく、「読む」「書く」「計算する」「推論する」などが部分的に苦手

## 発達に特性のある子にはまわりの理解やサポートが大切です —このお話は1つの事例です—

**先生** 発達に特性のある子 (Bさん) も含めて、みんなが参加・活動しやすくするにはどうしたらいいだろう

**Aさん** 班長 責任感と思いやりがある。意見を一つにまとめようとするけれどうまくいかずに悩む。

**Bさん** 思いつきの発言が多く 悪気はないのによく友達とトラブルになってしまう。

**Cさん** 内気な性格 いろいろな意見に耳を傾けられるけれど自分の考えを伝えるのは苦手

**Dさん** 正義感が強く 思ったことははっきり言う。マイペースなBさんに振り回されていると思う。

**1** 5年1組では総合的な学習の時間に、「よりよい新宿のまちづくり」について班ごとに新聞にまとめて、内容を発表するようになりました。

**2** どうして僕がたくさん話をする、みんな嫌な顔をするんだろう

Bさんは、話合いの進め方が具体的にイメージできないのかもしれない

あ、これが良いな やっぱり こっちも良いな あれ、でも…

私の意見はどうやって伝えればいいだろう

ねえ、みんなで作る新聞だよ

意見がまとめられないよ どうやったらいいだろう

**3** 先生は子どもたちと相談して、話合いの具体的なルールを作ることになりました。

みんなが困らないようにするには…

- 1 順番を決めて、みんなが意見を言えるようにする
- 2 人の意見は否定せず、最後まで聞く
- 3 自分なりの考えを持ち、発表する
- 4 班長はみんなの意見をしっかりと聞いた上で結論を出す

**4** みんながルールを理解したら、だんだん話合いがまとまるようになりました。

あ、ぼくの番だね ○○ってどうかな?

それ、すごいいい!

次、Bさんどうぞ

**5** 班長としてみんなをまとめることができてよかったな

みんなの話を聞くって大事なんだね 僕もみんなから誤解されずに参加できたよ

私の意見もみんなが聞いてくれたから、安心して参加できたわ

ルールがはっきりしたら、みんなで楽しく活動できたな

## 新宿区すべての小・中学校には、こんな支援もあります

**まなびの教室**

子どもの状態や発達段階などに応じた指導目標について、保護者・担任と共通理解を図り設定します。週に数時間、専用の教室で専門的な指導を受けることで、学习上・生活上の困っていることを改善していきます。

**特別支援教育推進員**

子どもの実態に合わせて担任の説明や取り組み方を分かりやすい形 (文字や絵等) で伝えたり、集中を促したりするなど、みんなと一緒に活動できるための手助けをします。